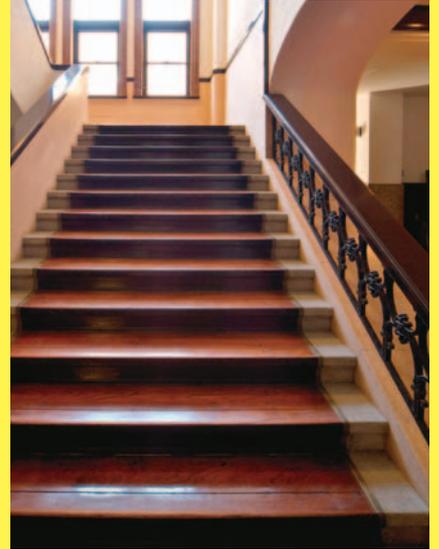




大学教育再生加速プログラム

2018年

プレゼミナールのご案内



2018年9月29日(土)・30日(日)

8月1日(水) エントリー開始



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

9月29日 (土)

10:00~10:30 開会式・全体説明

文系：「意味」を考える

理 系

午前の部 10:40~12:10

午後の部 13:20~14:50

午前の部 10:40~12:10

午後の部 13:20~14:50

セミナー1 (哲学)
「考える」ことを考える

定員30名

セミナーA (生活科学部食物栄養学科)
食べ物と調理
定員100名

午後はAO入試受験者のみが
受講できます

セミナー2 (日本語学)
〈濁る音〉の不思議

定員30名

セミナーB (生活科学部人間・環境科学科)
生活工学への誘い
定員20名

セミナー3 (ヨーロッパ文学)
アンデルセン『人魚姫』を読む

定員30名

セミナーC (理学部数学科)
平面曲線で遊んでみよう

定員20名

セミナー4 (教育方法学、教育課程論)
学級単位で学ぶ意義はなにか？

定員30名

セミナーD (理学部物理学科)
日常に潜む最先端の物理学

定員20名

セミナー5 (法学)
年齢と法的責任を考える

定員30名

セミナーE (理学部化学科)
光る化合物：化学の技術を
生命科学研究へ 定員30名

16:15~17:15

附属図書館見学 (16:15~17:15 (予定))

AO入試受験者 (文系学科志望者) 限定で、附属図書館を
見学できます。この企画への参加は任意です。

セミナーF (理学部生物学科)
RNA抽出と遺伝子発現の定量

定員20名

セミナーG (理学部情報科学科)
コンピュータグラフィックスを体験する

定員30名

※各セミナーの午前の部は10:40~12:10、午後の部は13:20~14:50 (各90分) を予定しています。

なお、セミナーAの午後の部はAO入試受験者限定です。セミナーB、Eは午前の部のみ開講します。

その他、セミナーによって授業時間配分が多少異なる場合があります。

※AO入試受験者は、各セミナー終了後、レポートを作成します (セミナーEは90分、その他は文理ともに60分)。

9月30日 (日)

図書館情報検索演習

午前、午後の2回実施します。お好きなほうにお申し込みください (ただしAO入試受験者は受講不可)。

午前の部：9:30~12:30
定員 50名

午後の部：13:30~16:30
定員 50名

理学部生物学科

※AO入試受験者は午前の部のみ参加できます (午後の部は参加できません)。

大学院生による
研究ポスター発表
10:00~12:30

自主研究課題相談会
13:30~15:30
※延長あり

プレゼминаールのご案内

お茶の水女子大学では平成29年度入試から、「新フンボルト入試」という新型AO入試を始めました。ものごとを深く考究する力、自ら課題を見つけ、データを集めて論理を構築する力、そうした豊かなポテンシャルをもった人を選抜したいと思えます。知識の量ではなく、知識をいかに活用できるか、を問う入試です。そしてその一次選考の一環をなすプレゼминаールを、9月29日（土）・30日（日）に開催します。2日にわたるプレゼминаールでは、お茶大の専門研究分野から選りすぐりのセミナーを開講し、AO入試の受験者のみならず、広く高校2・3年生にも開放して、お茶の水女子大学の校風や大学という学問の世界を垣間見てその面白さや奥深さを実地に体感してもらいたいと考えています。一部企画には高校教員の方も参加できます。このプレゼминаールは、AO入試の一部ではありますが、アカデミックなオープンキャンパスという色合いを強くもっています。AO入試を受験する人は、初日のいずれかのセミナーへの出席、レポート作成が必須です。なお、AO入試の詳細についてはAO入試学生募集要項を参照してください。



9月29日(土)

文系

今年の文系分野は、「「意味」を考える」をキーワードに、各セミナーを開講します。5人の先生たちが、それぞれの専門分野のホットな問題を取り上げて、講義やグループワーク、ディスカッションなどさまざまな工夫を凝らして授業を行い、縦横に議論を展開します。高校での学習ではなじみがないという内容のものもあるでしょうが、みなさんの知的好奇心の欲するままに果敢にチャレンジしてみてください。なお、各セミナーの定員は30名程度とし、受講セミナー決定においてはAO入試受験者の希望を優先します。

下記5つのセミナーから選択してください。 定員30名（総定員150名） 9月29日 10:40~14:50

セミナー1

「「考える」ことを考える」（中野裕考：哲学）

私は考える。あなたは考える。チンパンジーは考える。AIは考える。カブトムシは考える。
Yes, we can "think".

けれども、「考える」とは何をすることなのでしょうか。何をしたら「考え」たことになるのでしょうか。私やあなたとAIやカブトムシは、同じ意味で「考え」ているのでしょうか。「考える」ということがどういうことなのかが分らなければ、それも分かりません。

「考える」とはどういうことか、この問題について哲学には2000年以上の経験があります。みんなが納得できる結論にたどり着いたわけではないし、今後たどり着くこともないでしょう。けれども論点を整理し共有しながら話し合っていくことで、どういう道をたどっていけば答えに近づけるのか、ということを見通すための道案内はできます。「考える」ということについて理解するために検討すべき論点を一つずつ押さえながら、参加者のみなさんと一緒になってセミナーを進めていきたいと思えます。

セミナー2

「〈濁る音〉の不思議」（竹村明日香：日本語学）

「がぎぐげご」「がじずぜぞ」など、日本語には〈濁る音〉、いわゆる濁音と呼ばれる音があります。これらの音について不思議に思ったことはないでしょうか。

たとえば「すし（寿司）」は、上に「ちらし」「いなり」が付くと「ちらしすし」「いなりすし」のように「すし」と濁ります。ところが「そば（蕎麦）」は、「たぬき」「きつね」が上に付いても「たぬきそば」「きつねそば」となって濁ることはありません。なぜこのように濁音化に差が現れるのでしょうか？ また、そもそも濁音にはどうして「ㇿ」を付けて書くのでしょうか？ 「づ」も「ず」と同じ発音なのに、どうして「づ」「ず」の二つの文字が存在するのでしょうか？

本セミナーでは、こうした〈濁る音〉の不思議について迫ります。濁音化の規則を考えたり、室町時代の僧や外国人宣教師が作った資料を見たりして、日本語の歴史の中で〈濁る音〉がどのように変化してきたのかを一緒に考えましょう。

セミナー3

「アンデルセン『人魚姫』を読む」（田中琢三：ヨーロッパ文学）

デンマークの作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの代表作である『人魚姫』（1837年）は、世界で最もよく知られた童話のひとつであり、『リトル・マーメイド』など多くの映画の題材にもなってきました。本セミナーでは、おもにジェンダーの観点から『人魚姫』を読み解くことで、今日でも世界中で愛されているこの童話の魅力の一端に迫ることができればと考えています。

講義の前半は、「永遠の魂」や「自己犠牲的な愛」など『人魚姫』において重要ないくつかのテーマを取り上げて、ヒロインである人魚姫がどのような特徴を有しているのか、この作品からどのようなジェンダー的要素を見出すことができるのかを検討します。後半は、『人魚姫』のヒロイン像からどのようなメッセージが読み取れるのか、物語全体をどのように解釈できるのか、皆さんとディスカッションを行いながら考察してみたいと思います。

セミナー4

「学級単位で学ぶ意義はなにか？」（富士原紀絵：教育方法学、教育課程論）

日本の小学校、中学校、高等学校では学級を単位として教科の授業が行われるとともに、文化的で共同的な様々な活動に取り組むのが一般的です。一方で、みなさんはテスト勉強をする際に、個人でコツコツ取り組んできたのではないのでしょうか。学習の成果が個人に対するテストで問われるのであれば、なぜ学校では学級という集団で学ぶのでしょうか。また、頻繁に報道されるいじめの問題も、多くの場合、学級内で繰り広げられます。学級がなければ、こうした不幸な事態も起きないかもしれません。それにも関わらず、学級が存在するのはなぜでしょうか。学校で今現在学んでいる当事者として、皆さんには学級に対して色々な考えが思いが経験的にあるでしょう。学級という単位が学校に作られた背景についての講義や皆さんとのディスカッションを通して、多くの日本人にとって恐らく自明とされている学級という存在、そして、学級で集団で学ぶことの意味を考えていきましょう。

セミナー5

「年齢と法的責任を考える」（デアウカンタラ マルセロ：法学）

成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる民法改正案と関連法の改正案が2018年5月29日に衆議院本会議で可決され、同年6月13日に参議院本会議で可決され、成立しました。成人年齢の引き下げは、既に18歳以上に引き下げられた選挙権年齢と合わせ、少子高齢化が進む中で若者の積極的な社会参加を促すことが目的であると言われています。一方、少年法の適用年齢を20歳未満から18歳未満に引き下げるかどうかについては、議論が続いています。何歳から大人としての法的責任を問われるべきなのでしょうか。

本セミナーでは、法的責任と年齢の引き下げの是非を問う議論や子どもに責任能力がない場合にどこまで親が責任を負うべきかなどについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

理系

理系の各セミナーは、従来理学部で行っていた「科学への誘いセミナー」をさらにブラッシュアップしたかたちで実施します。いずれも各学科の専門分野を活かした刺激的なセミナーです。未知の世界に挑戦する気持ちで挑んでみてください。

下記のセミナーから選択してください。 9月29日 10:40~14:50

セミナーA

（午後はAO入試受験者のみ）

定員
100名

「食べ物と調理」（香西みどり：生活科学部食物栄養学科）

食品をおいしい食べ物にするのが調理です。米、野菜、肉、魚、など様々な食品が調理の操作によって様々な変化をし、食べて好ましい状態になります。様々な変化には、味、テクスチャー、外観、においが連動しており、これらはすべておいしさの要因になっています。一方で、でんぷんやタンパク質、ビタミン類などの成分の変化や組織構造も変わり、体内で消化吸収されやすい形になるので安全・安心の観点からも調理は必須です。人々の健康や幸福感に及ぼすこのような食べ物と調理の関係は、一人ひとりが日々の生活の中で感じ取り、実践し、身に付けていって欲しいテーマです。心身の健康を保つことは実は努力を要し、その自覚を促すよいきっかけになるのは、食べ物の役割を知り、おいしく食べる知識・技術を身に付けることです。本セミナーではおいしさを感じるしくみ、調理による食品の様々な変化、などについて話し、食べ物への興味から調理の実践への道標になればと思います。午後はAO入試受験者のみの受講です。

セミナーB 10:40~12:10

定員
20名

「生活工学への誘い」(太田裕治:生活科学部人間・環境科学科)

科学は、その普遍性・客観性・論理性を武器に、世界の仕組みを明らかにしてきました。そして、その成果を実際に社会の中で役立てるためには、科学が精密に分析してきたメカニズムを総合して設計する多様な工学的手法の理解が不可欠です。しかしそれだけでは不十分です。社会や生活の中で課題が生じたらその現場を、当事者と同じひとりの人間として理解する必要があります。両者の理解によりはじめて、真に課題を解決できる工学的方法の創造が実現します。

セミナーC

定員
20名

「平面曲線で遊んでみよう」(中居功:理学部数学科)

平面の曲線には、興味深いものがたくさんあります。簡単な数式で表せるものでは、円や楕円、放物線、双曲線などが挙げられます。これらは全て2次多項式で表され、2次曲線と呼ばれます。これらの曲線は高等学校で、定義や基本的性質を学びますが、驚くほど豊かな数学的世界を作り、その中で互いに深く関係しています。本セミナーでは、これらの曲線と折り紙との関係について考え、折り紙の手法による方程式の解法や、ギリシャ以来多くの人たちによって議論されてきた角の三等分の問題等について考えます。

セミナーD

定員
20名

「日常に潜む最先端の物理学」(奥村剛:理学部物理学科)

高校生で物理学に興味を持つ理由はいろいろあると思います。その一つとしてよく耳にするのが、この世界の現象が数式で説明できることを知って驚いたから。本セミナーでは、日常的で興味深い現象が、簡単な数式で「美しく」説明されることを、いくつかの簡単な実験を体験しながら実感してもらいます。題材としては、シャボン玉や切り紙などに関係した、目で見て楽しい現象を取り上げます。しかし、その内容は、実は、物理学の最先端で行われている研究なのです。将来、興味深い物理現象を「美しく」記述する数式を、世界で初めて発見したい人はぜひ参加してください!

セミナーE 10:40~12:10

定員
30名

「光る化合物:化学の技術を生命科学研究へ」(棚谷綾:理学部化学科)

蛍光物質は光をあてると発光する物質です。フルオレセインは古くから知られている蛍光物質です。また、自然界には、ホタルやオワンクラゲといった、様々な光る生物がいます。これらの生物がなぜ光るのかという研究から、様々な蛍光物質が見つかってきました。その中には蛍光を発するタンパク質も含まれています。

蛍光物質は蛍光塗料、蛍光インキなどとして日常に用いられています。一方、科学の世界でも、蛍光物質を用いることで、本来目に見えないものが「蛍光」として見るできるようになってきたために、分析手段などにも応用されています。最近では、生命科学の基礎研究や、病気の診断といった医療の世界でも、蛍光物質が注目されるようになってきました。

本セミナーでは、物質が光るメカニズムやその性質について解説し、身の回りにある蛍光物質を紹介します。また、蛍光物質がどのように生命科学研究や医学研究に応用されているかについて説明します。

セミナーF

定員
20名

「RNA抽出と遺伝子発現の定量」(佐藤敦子:理学部生物学科)

生命の情報は、ゲノムの塩基配列に書き込まれていますが、ゲノム上の遺伝子がいつどのように、どれくらい転写されるかによって、様々な表現型が生み出されています。このような表現型は、形の違いとして現れることもあれば、異なった環境への適応といったように、生理学的な量として現れることもあります。細胞内におけるmRNAは、目で直接見ることはできませんが、高温で活性化する特殊な酵素を用いて増幅し、定量することができます。本セミナーでは、異なった海水温に適応した2種のホヤからmRNAを抽出し、遺伝子発現量の違いを定量PCRで比較するという実験を行います。

「コンピュータグラフィックスを体験する」(伊藤貴之：理学部情報科学科)

コンピュータグラフィックス(CG)は、ゲームや映画などのエンターテインメント業界のみならず、自動車や建築の設計、科学現象の解明などをはじめとする多くの場面で私達の日常生活を支えています。このセミナーでは皆さんに、CGを用いて立体的なシーンを表現するためのプログラミング技術を体験していただきます。具体的にはまず、JavaScriptというプログラミング言語について簡単に説明し、続いてWebGLという3次元CG開発環境を用いたサンプルプログラムを紹介します。このサンプルプログラムが表示する物体の形状、色、動きなどを調節しながら、CGを用いて形状、色、動きをデザインするための理論を説明します。残った時間で自由に立体的なシーンをデザインして頂き、プログラミングの難しさや楽しさを体感していただきます。



9月30日(日)

図書館情報検索演習 (午前または午後)

AO入試の二次選考として文系では「図書館入試」を行います。図書館入試とは、簡単には正解の出ない課題に対して、本学の図書館所蔵資料を自由に使って情報を集め、それらを組み立て、独創的な答えを見つけてもらう試験です。情報検索力や自分の考えを論理的にまとめる力は、今後の人生のあらゆる場面で絶対に必要となるスキルです。情報の集め方、活かし方を学んでもらう機会として、プレゼミナール2日目に「情報検索演習」を実施します。

まず最初に、図書館スタッフによる情報検索のレクチャーを30分程度受けてもらいます。その後、2時間程度を使って、資料を調べ、論理を組み立てて、レポートを作成します。大学院生を補助としてつけますので、自由に相談することもできます。AO入試を受ける、受けないにかかわらず、この演習を受けることが今後の学習にとってプラスになるはずです。なお、午前の部は高校教員の方にも参加していただけます。ただし、AO入試受験者は受講できません。

理学部生物学科による大学院生研究発表／自主研究相談会

研究ポスター発表では、生物学科の大学院生が最新の研究成果をポスターで発表します。研究のまとめ方の参考になると思います。また、研究の進め方などについて大学院生と自由に話すことができます。相談会では、自主研究の課題の選定や研究の進め方などについて大学教員が相談にのります。生物学科の受験を考えている人のみを対象とします。応募時に相談内容の概要をお知らせください。

プレゼминаールのエントリー方法について

お茶の水女子大学プレゼминаールは、幅広い学問分野から多彩なプログラムを用意しています。また、お茶大の特徴である少人数教育の醍醐味を体感してもらうため、事前エントリー制を取ります。応募者多数の場合は、AO入試受験者が優先となりますことをあらかじめご了解ください。エントリー期間は、8月1日（水）から8月31日（金）17時までです（必着）。専用の申込フォームによりお申し込みください。

(1) AO入試受験者

プレゼминаールへのエントリーとAO入試出願書類の提出（出願期間8月27日（月）～8月31日（金））の両方を期限内に必ず行ってください。プレゼминаールには、なるべく出願に先行してエントリーしてください（願書へも希望セミナーを記入）。

文系学科志望者は、受講を希望するセミナーを第1～第3希望まで選んで申し込んでください。必ずしも志望学科が提供するセミナーを選ぶ必要はありません。セミナーの内容をよく読んで、もっとも興味があるものから順に3つを選んでください。なお応募者多数の場合には抽選になり、第2・第3希望のセミナーを受講する可能性があることをあらかじめご承知おきください。

理系学科志望者は、志望学科のセミナーを選択してください。

(2) AO入試を受験しない高校3年生および高校2年生等

セミナー内容をよく読んだ上で、第1～第3希望を記入してください。なお応募者多数の場合、抽選となることがあります。

9月29日のみ、30日のみの参加も可能です。

(3) 高校教員の方

9月30日（日）の企画のみ、参観していただくことができます。件名を「プレゼминаール高校教員参加希望」として、メールにてお問い合わせください。

<申込フォーム>

下記のURL（またはQRコード）の「2018プレゼминаール・申込フォーム」から必要事項を入力し、申込みをお願いします。なお、この申込フォームで申し込めない場合には、下記AO入試室までお問い合わせください。

<https://form.wpfs.jp/ocha/>

※エントリーを受け付けたのち、AO入試室から確認のメールを送ります。9月中旬までに調整のうえ、セミナー受講決定についてメールでお知らせします。なお、admissions@cc.ocha.ac.jpよりメールをお送りしますので、必ず、@cc.ocha.ac.jpからのメールを受信できるように設定しておいてください。その後のご連絡も、主にメールで行います（AO入試受験者への入試に関する連絡は、郵送により行います）。



<注意>

※エントリー後、何らかの事情で受講できなくなった場合には、速やかに下記AO入試室までご連絡ください。

※プレゼминаールへのエントリーのためにご記入いただいた個人情報は、本学の入学志願者・受験者に関する情報と同様、適切に処理いたします。同個人情報は本学が管理し、プレゼминаールの運営および付随する業務を行うために必要な範囲内で利用します（学生募集要項の関連する記載も参照）。

お茶の水女子大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

問い合わせ先

お茶の水女子大学AO入試室

TEL 03-5978-2700

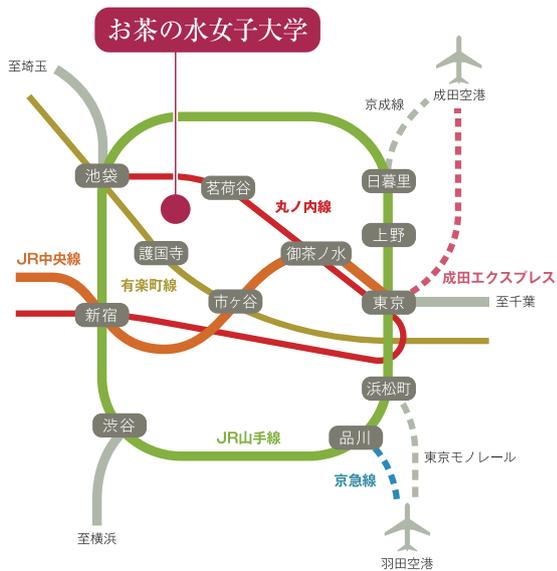
FAX 03-5978-2566

MAIL admissions@cc.ocha.ac.jp



周辺MAP

- 茗荷谷駅（東京メトロ丸ノ内線）より徒歩7分
- 護国寺駅（東京メトロ有楽町線）5番口より徒歩8分
- 大塚二丁目停留所（都営バス）下車徒歩1分
（都02番、都02乙番）



最寄駅までのご案内 ※時刻はおよその目安です

- 東京駅 ●-----● 茗荷谷駅
東京メトロ丸ノ内線【約10分】
- 品川駅 ●-----● 東京駅 ●-----● 茗荷谷駅
JR山手線【約7分】 東京メトロ丸ノ内線【約10分】
- 羽田空港 ●-----● 浜松町駅 ●-----● 東京駅 ●-----● 茗荷谷駅
東京モノレール【約30分】 JR山手線【約7分】 東京メトロ丸ノ内線【約10分】
- 池袋駅 ●-----● 茗荷谷駅
東京メトロ丸ノ内線【約5分】
●-----● 護国寺駅
東京メトロ有楽町線【約5分】
- 新宿駅 ●-----● 池袋駅 ●-----● 茗荷谷駅
JR山手線【約10分】 東京メトロ丸ノ内線【約5分】
●-----● 護国寺駅
東京メトロ有楽町線【約5分】

申込み期間	2018年8月1日（水）～8月31日（金）17時
参加資格	本学での学びを志望する女子（高校2・3年生） 高校教員（男女不問）
申込み方法	下記URL（またはQRコード）の 専用申込フォームから、お申込みください https://form.wpfs.jp/ocha/

申込フォームは
こちらから
アクセスできます



申込み・問い合わせ先 お茶の水女子大学AO入試室

TEL 03-5978-2700 FAX 03-5978-2566 MAIL admissions@cc.ocha.ac.jp